



● アメリカカンザイシロアリとは

このシロアリは、北米の砂漠地帯が原産で、名前の通り、家の柱、天井裏の梁、家具や建具といった乾燥した木材に巣を作り、食い荒らすのが特徴です。在来種と比べて繁殖力は強くはありませんが、日本では根本的な駆除が難しく、放置しておくとも被害が広がることも考えられます。

● 在来種のシロアリとどこが違うのか

在来種のシロアリに比べて、駆除が非常に困難という点です。

在来種のシロアリは水分がなくては生きていけませんので、巣はもともと地中にあり、そこから床下などの湿った木材にトンネルをつくって侵入し、土台などの木材を食い荒らします。従って侵入経路に集中的に薬剤散布を行う事で、駆除と再発防止が同時に可能です。薬剤の効力が有効な間は新たな侵入もありません。

ところが、アメリカカンザイシロアリは、水分がなくても生きていけるため、軒先や開口部、壁の割れ目などあらゆる場所から侵入します。天井裏や壁にかけてある絵の額縁や、木製の机なども被害にあいます。(写真②)

一本の木材に複数の巣が作られ、それぞれの巣に独立の女王アリがいるのも特徴です。木材の表面には、一見、異状が見られず、専門家でも、どこまでの範囲が侵されているかの判断が難しいため、完全に調べるには、壁や天井をすべてはがして見なくてはなりません。

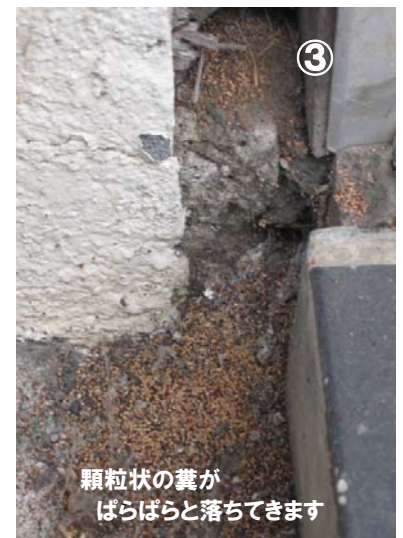
殺虫剤には弱い虫ですが、建物のあちこちに巣を作られてからでは、全ての巣に薬剤注入をすることは難しくなります。



● 被害を受けているかどうかの判断は

ひとつは羽アリの発生です。6月～10月ごろ柱や窓枠から発生します。羽アリは体長 1cm 足らずで、色は白くありませんので、シロアリと気付かないこともあります。(写真①)

もうひとつは、砂のような顆粒状の糞(写真③)の発見です。天井からパラパラ降ってきたり、部屋の隅などにうっすらと積もっていたりします。一般の人はそれがシロアリの糞とは知らずに掃除してしまいますので、発見が遅れ、被害拡大に結びついてしまいます。



● 知らずに被害を拡大させてしまう危険

このシロアリに侵された家具や、建物の廃材を、知らずに移動させてしまうことで、被害地域がどんどん広がってしまう危険もあります。

● 有効な防衛方法は

初期段階では、巣の数も少なく根絶が可能ですので早期発見が大切です。上にあげた二つの徴候を見逃さないよう心がけ、少しでも怪しいと感じたら、専門家に相談することが望まれます。